

新崎盛暉平和活動奨励基金 助成金採択者

1. 2017 年度助成金採択者（第 1 期）

・宮城秋乃さん

「東村高江・国頭村安波の生物調査」

沖縄県うるま市浜比嘉島出身。「アキノ隊員」として沖縄の森林性のチョウを研究。2011 年 9 月より高江の昆虫類を調査。高江で準絶滅危惧種であるリュウキュウウラボシシジミやリュウキュウナミジャノメが多産していることを確認した他、新種のカニムシや希少なゴミムシを発見。当研究を通して、基地建設の沖縄自然環境への影響を伝えている。

（助成金 400,000 円）

・河村雅美さん

The Informed-Public Project (IPP) 代表。IPP は沖縄をベースにした調査団体で、主に米軍基地汚染の環境問題に取り組む。情報公開制度等を駆使した調査報道的なアプローチを用いる。具体的なケースから、日米沖の現実的なポリティクス、問題解決者としての当事者性がない自治体のカルチャーの問題などの構造的な問題をあぶりだすことに主眼を置いている。

（助成金 300,000 円）

2. 2018 年度助成金採択者（第 2 期）

・渡嘉敷健さん

「沖縄県内における米軍航空機騒音の測定及び解析」

琉球大学工学部准教授。2017 年 12 月に米軍の部品カバーが落下した宜野湾市野嵩の緑ヶ丘保育園の屋上に騒音測定器を設置し、米軍の飛行ルート外にある同園の騒音環境や米軍機の飛行実態を明らかにすることで原因究明に繋げる。

（助成金 300,000 円）

・金閨愛(キム ウネ)さん

「演劇集団「創造」を中心とする戦後沖縄文化運動史の研究」

東京外国語大学 国際日本研究センター 特定専門員。90 年代の韓国における民主化運動に際し民衆歌謡の果たした役割、その歴史的展開について研究を進め、東アジアの文化運動に関する比較史、韓国と共通した経験を有する戦後沖縄の文化運動について調査研究を行っている。劇団「創造」で多くの脚本を執筆し演出を担った知念正真の著作活

動の体系的な復元を通して戦後沖縄の歩み、文化活動の普遍的意義を国際的に発信する。
(助成金 400,000 円)

3. 2019 年度助成金採択者 (第 3 期)

・北上田毅さん (顕彰)

土木技師。沖縄防衛局や県警などへの情報公開請求を続け、辺野古ゲート前の警備費や辺野古新基地建設予定地における軟弱地盤などの問題点を指摘。警備費については会計検査院も過大積算を指摘し、軟弱地盤問題は沖縄県の埋立承認撤回の最大理由となった。

(助成金 500,000 円)

4. 2020 年度助成金採択者 (第 4 期)

・生活協同組合コープおきなわ

「地域住民が主体となった戦争体験者への聞き取り、次世代へ継承する活動」

戦前、戦中戦後の衣食住など、生活者の視点で地域の人びとの沖縄戦体験の聞き取り調査を行い、戦前から戦後の暮らしと沖縄戦を連続性で捉え、次世代への継承に繋がる可能性が見いだせる。

(助成金 310,000 円)

5. 2021 年度助成金採択者 (第 5 期)

・吉川秀樹さん

吉川氏は、自身の専門分野である文化人類学の知見を、研究のみならず市民運動の中で活かす取り組みを長年にわたり実践されてきた。とりわけ、辺野古新基地建設にかかる環境問題、特にジュゴン訴訟を通して国際社会とのネットワーク構築に尽力し、国内外に広く環境正義の問題として提起してきた功績は大きく、市民グループにおける調査活動をけん引し、「島ぐるみ会議」の訪米行動への取り組み、国際、国連機関へのアプローチなど多角的な活動が支持された結果、推薦者からの推薦になったものと考え、助成採択する。

(助成金 500,000 円)

・宮城秋乃さん

「北部訓練場返還地の米軍廃棄物調査」

前回採択(2017年第1期)後、活動を進めていく中で生じた新たな課題、活動内容での申請となった。加えて、2021年6月4日に沖縄県警による威力業務妨害での家宅搜索を受け、調査活動機材等の押収により、調査研究活動に支障をきたしている。宮城さんへの家宅搜索は、平和的市民活動への国家権力による妨害行為とも受け取れ、当基金が目的とする沖縄の平和と人権を守るための創造的実践活動を阻害するものと考え、今期助成採択する。

(助成金 200,000 円) ※前回採択の「追加助成」とする。

6. 2022年度助成金採択者(第6期)

・金武町環境問題を考える会

米軍基地から派生する水質汚染による健康被害につき、地域住民の安全、安心に資する市民活動に意義があると認め助成する。なお、申請時は、血液検査費用についての助成申請であったが、その後、血液検査は金武町負担で行うこととなった為、検査、調査結果の報告書にかかる費用として助成することとなった。

(助成金 100,000 円)

・「あなたの沖縄 コラムプロジェクト」(主宰・西由良)

「若者世代が個人的な体験から沖縄問題を考えるためのトーク企画」

応募者らは、1990 年代生まれの若者を中心に、「あなたの沖縄」と題する沖縄に関するコラムをオンライン上で執筆し発表する活動を行なっている。今回の応募はコラム活動をとおして 1990 年代生まれの若者たちの体験による違和感を、沖縄と県外の差別的構造と捉え直し、それらを言語化する取り組みをとおして普遍的な議論へと昇華し、若者の政治離れの現状を打破していくとの主旨である。次世代の積極的な活動に新鮮さと期待感が大きいと認められるため、採択する。

(助成金 300,000 円)

7. 2023 年度助成金採択者(第 7 期)

・神里菜月さん「平和学習イベント みらいフェス」

神里さんは沖縄戦や、憲法をテーマに資料展示やお話会などをとおして、自身の生活と政治が密接に繋がるということを理解することで「声をあげる」「投票に行く」ことが平和に繋がるのだという思いから、子どもからおとなまで気軽に楽しみながら政治や平和について考える機会を持ってもらおうと、県内各地で市民が利用しやすいようにマルシェや、各種フードイベントを開催し、平和活動「平和学習イベント ニライフェス」を展開している。多彩でしなやかな活動の新鮮さと今後への期待を込めて採択とした。

(助成金 100,000 円)

・「沖縄「平和の礎」名前を読み上げる集い」同実行委員会

県内外、国内外の子どもからおとなまでを巻き込み、糸満市摩文仁の「平和の礎」に刻まれた戦没者の名前をリレー形式で読み上げる活動をとおして、沖縄戦の経験や「平和の礎」建設過程を学ぶなど、沖縄の民衆の歴史に根差した平和な社会を築いていくための機運づくりに尽力している点が高く評価され、今後の取り組みへの期待とし採択した。

(助成額 300,000 円)

・「沖縄県小中学生のための「琉球・沖縄の歴史教育」普及推進・啓発活動」 沖縄県小中学校歴史教育研究会

同会は、県内公立小中学校の退職教員が中心となって専門的知見を活かし、「琉球・沖縄

の歴史と文化」教育普及を図るため、短編アニメの制作や副教材の無償配布など、実践的かつ、創造的な取り組みを行っており、多忙化する県内小中学校における現場教員の支援なども視野に入れた多様な方策が高く評価され、今後の取り組みへの期待も含め採択とした。
(助成額 200,000 円)

・「未来につなぐ「ていだ結の浜」フォトコンテスト」美ら海を未来に残したいというちなんちゅの会

同会は那覇軍港の移設先とされる浦添西海岸地区への軍港建設、リゾート開発による海岸埋め立てに反対するための活動を行っており、日ごろ、浦添西海岸を利用したり、浦添市民でさえも海岸の埋立予定が知られていないことに危機感を持ち、オンライン署名などを行ってきた。今回、より多くの人に現状を知ってもらおうと「ていだ結の浜」と命名された海岸の保全に向けて、現状の海岸の美しさを写真に撮って応募してもらうことをとおして、埋め立てではなく海岸を残すという機運を高めるという取り組みが高く評価できるとし採択した。
(助成額 100,000 円)

褒賞 宮村みつおさん

「万国津梁の鐘」碑文を通して改めてアジア・世界の平和を考える

宮村さんは長年にわたり九州の地で、沖縄の文化について語り、沖縄の反戦平和活動を共にしてこられた。今回、武力によらない平和構築を目的として、北九州芸術劇場で朗読劇「万国津梁の鐘を造った男」の企画、公演を行うにあたり、親交の深かった故新崎盛暉先生へのオマージュとして応募された。当基金運営会として、宮村さんの長年のご功労に敬意を表し、褒賞とした。
(褒賞 50,000 円)